

洋平



「残念だったよね。でも、また頑張ればいいよ！」

美穂ちゃんが明るく言った。

「は？ また、頑張る？ 何言ってるの？ もう、頑張れるわけじゃないじゃん。中間テスト捨てて、夜も寝ないで描いたんだよ！ また頑張れなんて、頑張ったことのない人間が言うセリフだよ！」

私は心の中で、美穂ちゃんをののしった。

昨日が、雑誌『ひまわり』で公募していた漫画作品の入賞発表だった。命かけて描いた私の作品は、最終選考にも残ってなかった。

十七歳までにデビューの夢が消えたのが昨日。なのに、翌日に、この言葉はきついよ。

横断歩道にかかった時、行く手を見て、美穂ちゃんが言

った。

「あれ、とっくに選挙終わったのに、あの人、何やってんの？」

見ると、駅前で、ロン毛を後ろでくくった若い男が、マイク片手に、何か言ってる。確か、選挙で落選した市民派のミュージシャンか何かじゃなかったけ？

なににせよ、つまらない。

選挙中、街頭では、選挙カーが、憲法がどうの、戦争がどうのとか言ってたけど、馬鹿馬鹿しい。こんなちっぽけな国が今、大国相手に、戦争なんかできるわけじゃないんって思った。結果、投票率低くて、戦争はしないと書いた平和憲法の改憲を目指してる与党の大勝利だって、テレビで言ってたよな。

越水利江子作
大島加奈子絵